

なぜ、この悲劇は起きたのか。

製作：工藤元 演出：羽田澄子（レター・巻） 撮影：相馬健司 整音：滝澤修
ピアノ：高橋アキ（サティピアノ音楽全集より） 吹替レター：喜多道枝 自由工房作品



今でも誰か官僚に聞きたい。
何で私たちが
満州へ送りだしたのだったのか。



開拓団の人たちが
トラックの窓に手をかけて
「乗せてってくれ」って。
それを振り払って
行っちゃうんだから。



嗚呼 満蒙開拓団

羽田澄子演出作品



妹は最後に
「お芋食べたーい、お芋食べたーい」
と言っている間に
連れていかれた。

2009年文化庁映画賞 文化記録映画大賞
2008年キネマ旬報 文化映画ベストテン第1位
2008年日本映画ペンクラブ文化映画ベスト1
2008年東京国際女性映画祭 オープニング作品



満州に行くときは、
皆「国のため」と行つたの。
あんな遺骨を見ると
残念で。

世界の名画を見る会 vol.31 企画・構成 高野悦子

- 14:00～ 講演：羽田澄子（記録映画作家）
「『嗚呼 満蒙開拓団』この映画から思うこと」
- 15:00～ 上映：映画「嗚呼 満蒙開拓団」
(2008年/日本/カラー/120分/ドキュメンタリー)



羽田澄子

■プレイガイド

コラーレ／黒部メルシー／魚津サンプラザ
入善コスモホール
アーツナビ(新川文化ホール・富山県民会館・
富山県教育文化会館・富山県高岡文化ホール)

●お問い合わせ・チケットの申込み●

コラーレ

富山県黒部市三日市20番地
TEL. 0765-57-1201
FAX. 0765-57-1207
<http://www.colare.jp/>
e-mail: info@colare.jp

開館時間：9:00～22:30(土曜～23:00)／毎週水曜休館

2010

4月25日(日) 開場 13:30
開演 14:00

黒部市国際文化センター

コラーレ (カーターホール)

- この公演は黒部市の助成により低料金でお楽しみいただけます。
- 未就学児の入場はご遠慮願います。
- 公演中の一時保育(無料)を希望される方は、事前にご連絡ください。

【全席指定】一般 1,500円 高校生以下 500円(コラーレのみで発売) 障害者手帳をお持ちの方 1,000円(コラーレのみで発売)



嗚呼 満蒙開拓団

ああ まんもうかいたくだん

製作・工藤 充 演出・羽田 澄子(ナレーター兼) 撮影・相馬 健司 整音・滝澤 修
ピアノ・高橋 アキ(サティ・ピアノ音楽全集より) 吹替ナレーター・喜多 道江 自由工房作品



満蒙開拓団とこの映画について…………… 羽田澄子

私は旧満州の一部と見られていた関東州の大連に生まれ、小学校も女学校も旅順。そして戦後、引揚げてきました。しかし、同じ満州でも最南端の都会に暮らしていた私は、戦後、満州の奥地で起きていたことを知りませんでした。知ることになったのは1981年、「中国残留日本人孤児」の訪日調査がはじまり、さらに2002年に中国「残留孤児」国家賠償請求訴訟がはじまったことがきっかけでした。裁判がどうなるか見守っている間に、中国東北地区の方正（ほうまさ）県にある「方正地区日本人公墓」のことを偶然知ること

になりました。方正地区には、ソ連軍の満州進駐、日本の敗戦によって、満州の奥地から多くの開拓民が避難してきて、ここで数千人もの人が亡くなっているのです。「この人たちの遺骨をお墓に」と願った、ある残留婦人の思いを受け止めたのは中国の周恩来総理でした。周恩来の指示によって、中国方正県政府が建設したのが「方正地区日本人公墓」なのです。

「お国のため」と送り込まれた満州移民は敗戦によって、遺棄されたも同然となりました。その体験者の多くはすでに亡くなっていますが、多くの方に取材し、日本の近現代史を振り返り、日中友好が大切であることを考えました。



満蒙開拓と時代の流れ

満蒙開拓団とは、1931年の満州事変以後、日本政府の国策によって、中国大陸の旧満州、内蒙古に入植させられた日本移民のこと。1945年の大太平洋戦争敗戦までに送り込まれた開拓団員は約27万人と言われている。しかし、その内の約8万数千人が、ソ連参戦、日本の敗戦によって、帰国できずに亡くなっている。

■年表

1894年（明治27年）	日清戦争
1904年（明治37年）	日露戦争
1906年（明治39年）	南満州鉄道設立
1928年（昭和3年）	張作霖爆殺事件
1929年（昭和4年）	大恐慌はじまる
1931年（昭和6年）	満州事変はじまる （柳条湖満州線路爆破を口実に関東軍が軍事行動を開始）
1932年（昭和7年）	満州国建国 五・一五事件 犬飼首相暗殺 議会で満州移民案を可決 第一次武装移民団、チャムスへ 東北地方の冷害。大飢饉をまねく
1934年（昭和9年）	二・二六事件
1936年（昭和11年）	高橋是清蔵相ら暗殺 広田弘毅内閣、満州100万戸移住計画を策定 廬溝橋事件 日中戦争はじまる
1937年（昭和12年）	満州開拓青少年義勇軍 第一次募集
1941年（昭和16年）	太平洋戦争勃発
1944年（昭和19年）	夏以降 関東軍による、開拓団男子の根こそぎ動員
1945年（昭和20年）	8月9日 ソ連参戦によって満州国崩壊 8月15日 ポツダム宣言を受け入れ無条件降伏



今でも誰か官僚に聞きたい。
何で私たちを満州へ送りだしたのかって。

■石原政子さん
戦争が進む中、父母は、5人の子供を抱え食うや食わずの生活に陥る。役場の人に「満州へ行けばお米もたくさんあるし、作物は誰でもできる」と何度も勧誘され、一家で満州へ渡ることになった。彼の地に着いたのは昭和20年5月26日。まもなく終戦。開拓団から避難命令が出たその日に日本から届いた荷物を、紐とくこともなく逃避行。満州で父母、妹らを亡くす。

■樗沢仁さん
開拓団の人たちがトラックの窓に手をかけて「乗せてつてくれ」って。それを振り払って行っちゃうんだから。

■松田ちるさん
終戦の2ヶ月前、10歳の時に、父の小部隊のある綏芬河へ渡る。ソ連との国境の町であったが、終戦時は軍人家族として最優先で後方へ逃がしてもらえた。軍のトラックに乗って避難する道中に見たのは、何十台と続く軍のトラックが、逃亡手段を持たない開拓民たちを置き去りにして進む姿だった。満州で母と妹を亡くす。

出演者の証言

妹は最後に「お芋食べたーい、お芋食べたーい」と言っている間に連れていかれた。

■金丸キヌ子さん
開拓団家族として満州へ。終戦当時8歳。母と姉妹、同じ集落の女性、子供達とともに逃避行を始める。襲撃の危険に晒され、飢えと疲労で泣き叫ぶ子供たちを犠牲にせざるを得ない悲劇が次々に起こる。方正の避難所に着いてからも、厳しい冬を越せずに多くの人が亡くなっていった。幼い妹は避難途中に犠牲となり、母も避難所で亡くなった。

■松田ちるさん
満州に行くときは、皆「国のため」と行つたの。あんな遺骨を見ると残念で。

■樗沢仁さん
開拓団員として満州へ。夫は徴兵され、避難した方正で一人娘を失う。自身も重い病気で生死をさまよい、助けてくれた中国人と再婚し中国で暮らす。戦後十数年経った頃、砲台山の麓の畑を開墾していたとき、山となった日本人の遺骨を見つける。せめて埋葬してあげたいと、方正県政府に日本人の墓を作る許可を願い出た。